

今後の課題を一つあげますと、日印産連や全印工連の協力で、文化賞やアドバイザー講座、アドバイザー試験の宣伝が広がっています。それは私たちが望むうれしいことですが、同時に事務量も増えてきました。そのため事務局局員の増員などパワーアップする必要が出てきました。問題はその費用をどうやって増やすかです。いずれにせよ、現三役も含め、次のJSN新体制を検討する時期を迎えたといってもいいでしょう。会員の皆さんにも、理事役員会の前に議題をお伝えいたします。

2. お知らせ … 自費出版業者と著者を結ぶマッチングサイトの提案があり

自費出版制作業者と著者を結ぶマッチングサイトを構築運営したいという外部からの提案がありました。著者が自費出版制作業者を選ぶのに参考するサイトです。ただ、まだ提案が粗く、みなさんに紹介できる段階ではありませんが、このようなアイデア出てくることは自費出版市場の活性化に必要だと思いました。

3. お知らせ … 「2024高知全国大会」は5月24日（金）に開催

「2024高知全国大会」が2024年5月24日（金）に開催されます。いつもより少し遅いので間違えないようご注意願います。飛行機を使う方は格安航空券の販売に注意してゲットしてください。

4. お知らせ … 第42回自費出版アドバイザー講座開催します

リアル+オンライン公開講座
第42回自費出版アドバイザー講座
「電子書籍の悩み これぞ解決！ーはじめての電子出版ー」

「紙の書籍を作るのとあわせて電子書籍も頼まれ、困ってしまった経験はありませんか。どこにどのように依頼？ どんなデータを作れば？ どのプラットフォームに配信する？ 販売はどうしたら？ などなど。そこで、電子書籍のパイオニアであるボイジャーさんに、現場の立場から分かりやすく解説していただきます。電子書籍の基礎から具体的な実務まで学べる講座です。」

当日は、「YouTubeライブ」で限定ライブ配信を予定しています。

会場に来られなくても質問はチャットで参加できます。

(Googleアカウントでログインする必要があります)

お申し込みいただいた方には、講座前日までに視聴先URLをメールでお知らせします。

また、2月25日(日)までアーカイブ動画を視聴できますので、お気軽にお申し込みください。

■講師：株式会社 ボイジャー 齊藤 圭史 氏
■日時：2024年2月16日（金）15時00分～16時40分
■場所：ジャグラ本部 8階会議室
東京都中央区日本橋小伝馬町7-16 ニッケイビル8階
■研修費：日本自費出版ネットワーク会員は 2,000円、
ジャグラ会員・全印工連会員は 2,500円、その他一般の方は 3,000円
■申込み 問合せ
申込締切日：2024年2月9日（金）
お申し込みは、下記のGoogleフォーム、

または日本自費出版ネットワークのメール、FAX宛にお送りください。
申込みフォーム：https://forms.gle/uF1ZNbyaeMMS7tsr8
メール：pp@japan.email.ne.jp
※お申込み後、研修費のご請求書を郵送でお送りいたします。

NPO法人日本自費出版ネットワーク事務局
電話 03-5623-5411 FAX 03-5623-5473
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16 ニッケイビル7F

氏名：
会社名：
メール：
住所：
電話：
FAX：
所属など：
・日本自費出版ネットワーク会員
・ジャグラー会員
・全印工連会員
・その他一般
ご質問など：

□□ _____ □□

☆ 自費出版事情… ～会員便り～No.74

□□ _____ □□

当社の近況

有限会社 一粒社（一粒書房）
都築 延男

令和6年1月1日の能登半島地震においては、冬季での被害・犠牲者状況を連日のテレビを見ると、神も仏もない現実を見る気がします。お悔みを申し上げます。

昨年は、自費出版ネットワークの5月の旭川大会に始まり、6月はジャグラー高知大会でも会員さんと出会ったり、どちらの会場でも「オモテナシの心」が強く伝わる感謝の大会でした。今年も、高知総会がありますので、昨年行けなかった高知の会員様の会社見学等がありましたら、社員も連れて参加させて頂こうとは思っています。

先日、愛印工の新年互礼会に参加させて頂き、会話をすると、仕事量が減って今後が大変だという経営者が多数でありました。しかし、利益が出ている会社さんは、紙以外の仕事で順調に伸びていると聞きました。従来から印刷の生産方式は、活字・タイプライター～写植～電子組版～マックと制作工程が大変化してきましたが、全て紙の上にインクを印刷してきました。ところが今変化が起きていることは、ベースである紙を使用しないようにする方向に向かっていることです。顧客は、紙を使うか、タブレットで見えりゃいいものかと、取捨選択されるものと思われま。しかし電子書籍は、どんどん増えるとは、私は思いません。著者の方の多くは、紙の書籍を希望しています。当社でも、一般印刷は、減少傾向が続いていますが、自費出版だけは、何とか堅調に推移してますので、新しい柱を見つける研究をしながら営業努力をしたいと思えます。本年もよろしくお願ひします。

□□ _____ □□

☆ 知っとこ高知 その 9

□□ _____ □□

「高知愛」

高知に来てもう20年以上になりましたが、高知には「Uターン」「Iターン」のほかに「嫁ターン」という言葉があります。私がまさにそれなのですが、結婚した嫁がなぜか県外から旦那を高知に引っ張ってくるというパ

ターンです。さすが「はちきん」。高知は女性が強いのです。
そのほか「よさこい踊り」が好きすぎた結果の「よさこい移住」や、『釣りバカ日誌』のハマちゃんのモデルといわれる黒笹慈幾さん（元・小学館の編集長）をはじめとする「釣り移住」や「サーフィン移住」など、高知の魅力に取りつかれて移住した人は私の周りにもたくさんいます。

中でも有名なのは、奥田瑛二さんと安藤和津さんの長女で映画監督の安藤桃子さん。
映画撮影のロケをきっかけに移住した桃子さんが、いろんなところで高知の魅力を語っているの
でご紹介します。

高知は鰹と坂本龍馬の知識くらいしかなく、縁もゆかりもなかったのですが、撮影をしている間に惚れてしまい移住しました。
映画「0.5ミリ」は小説にした時点で全ての想いを吐き出してしまい、脚本化するのになかなかモチベーションがあがらず困っていたんです。そんな時に父が仕事で高知県に行って、「0.5ミリは高知県だ！」って帰宅早々言ったんです。私自身、脚本を書くにはリアルな場所に出会うことしか解決策はないと思っていたので、すぐに向かいました。降り立った瞬間「私は高知を描いていたんだ！」と思うほどドンピシャ。肌を刺すような日差しの強い場所で、映画にとって一番大切な光と影のコントラストが美しい。人はラテン気質で明るく、豊かな自然があって、酒文化がすごいので夜の街も賑やか。とにかく全ての生命力が強烈。映画の主人公のサワちゃんは人に正面からぶつかる性格なんです、高知の人、全員がサワちゃんだった（笑）。

やはり高知県に呼ばれていたんだと思います。映画作りはその過程で地元ととても深い関わりを持つんです。撮影期間のたった数ヶ月で、数年間住んだくらいの濃く深く広いコミュニケーションを地元の人々と取ったので、移住決断は3秒で決めた。住みたい！と思った場所との出会いははじめてのことでした。～中略～

多くの人が「ねばならぬ」という風に生きがちですよね。それを、「なるがまま」とひっくり返えさせたらすごく楽になると思うんです。映画製作もそうだけど、ほとんどのことが思い通りには行かないことばかりです。だからこそ「なるがままに」と切り替える。すると向こうからやってくるんです、いろいろなものが。～中略～

やりたくないことを「ねばならない」と必死にやっている人には「死にやあしない！」と言いたいです。だって平均所得最下位にもなった高知県人が豊かな心で暮らしている。もちろん、贅沢の種類が違いますが、豊かな生活が確実にそこにありますから。

リーブル出版（株式会社リーブル）
代表取締役 坂本 圭一郎

★あとがき

私事ですが、先日、宮崎まで出かけていました。
帰りの飛行機の出発時刻が1時間遅れるというアナウンスが入りました。
仕方なく空港内に本屋さんがあったので、さほど期待せず時間つぶしのつもりで寄ってみると、お土産物屋さんの隅っこ広さ8畳くらいなのですが、そのレイアウトや本のセレクトがとても面白い。
宮崎県にしばらく移住していたという俵万智さんのサイン本があったり、何よりも郷土史コーナーが充実していて旅のおさがりができました。
高知愛ではありませんが、宮崎愛を感じました。
ただ、旅の初めにに寄りたかったなあ、と思った次第。
本さんが減っていると聞く昨今、充実した本屋さんに出会ってちょっと嬉しくなりました。
旅先で本屋さんに行く。
これはなかなか、いいかも！

最後までお読みくださりありがとうございました。

お気づきの点、掲載情報、はたまた私への激励のお言葉がございましたら
yumi@maruwanet.co.jp まで、お願いいたします。

◆日本自費出版ネットワーク事務局
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16 ニッケイビル7階
電話：03-5623-5411
FAX：03-5623-5473
<http://www.jsjapan.net/>

過去のメールマガジンはコチラからご覧になれます

↓

<https://www.jsjapan.net/pages/mm>
